

372-493



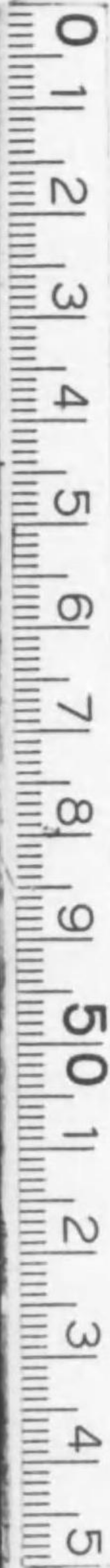
1200501449076

372

493

遍照寺小史

小野方良行編



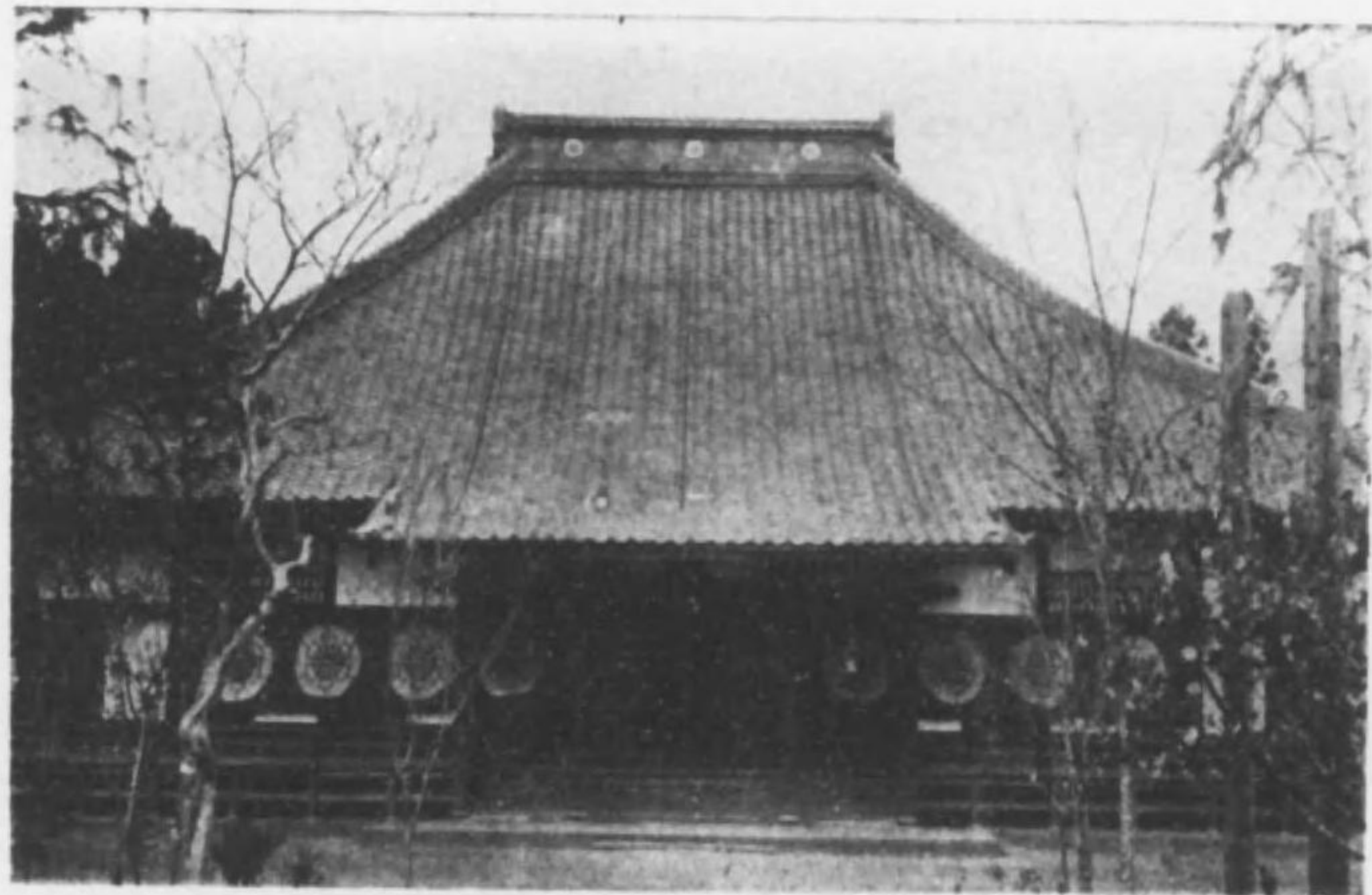
始



遍照寺小史

草創山慈觀上人





堂本寺照遍



門雀中



門總

372-493

自序

高祖大師曰。不滅法也。不墜人也。高祖之言旨哉。法依人弘。人依法進。人法相俟。始可期其隆運焉。茲考遍照寺緣起。建久九年。係新田大炊介義重公開基。慈觀上人創立。後百六十年間。寺運衰頹。殆將廢滅。歷年世代。不可考覈。貞治六年。俊海僧都。大計恢復於此。機運循環。法燈復明。天正年間。館林城主榊原侯。歸依十三世宥圓。移寺於新宿村。爲祈願所。至寬永慶安歲。德川幕府並榊原侯。下賜朱章及黑印。自中興來。四百餘年于此。至予閱四十世。法鐙連綿。無復斷絕。大正十年。予襲別格本山護國寺第四十九世法統。猶攝務該寺三年焉。十四年。以弟子守山良澄爲其住職。昨年五月遷寂。更以弟子古茂田寂證代之。今將舉晋山式。深虞古記文獻散逸。欲編纂寺史以傳後葉。來需之編纂。予師資之誼不敢辭。乃涉獵舊記並豐山傳通記榊原家々乘等編本。

高祖後高田城主榊原侯

高祖大師曰。不滅法也。不墜人也。高祖之言旨哉。法依人弘。人依法進。人法相俟。始可期其隆運焉。茲考遍照寺緣起。建久九年。係新田大炊介義重公開基。慈觀上人創立。後百六十年間。寺運衰頹。殆將廢滅。歷年世代。不可考覈。貞治六年。俊海僧都。大計恢復於此。機運循環。法燈復明。天正年間。館林城主榊原侯。歸依十三世宥圓。移寺於新宿村。爲祈願所。至寬永慶安歲。德川幕府並榊原侯。下賜朱章及黑印。自中興來。四百餘年于此。至予閱四十世。法鐙連綿。無復斷絕。大正十年。予襲別格本山護國寺第四十九世法統。猶攝務該寺三年焉。十四年。以弟子守山良澄爲其住職。昨年五月遷寂。更以弟子古茂田寂證代之。今將舉晋山式。深虞古記文獻散逸。欲編纂寺史以傳後葉。來需之編纂。予師資之誼不敢辭。乃涉獵舊記並豐山傳通記榊原家々乘等編本。

書。名遍照寺小史。以備于後代住持閱覽不謬而已。爲後葉住持者。鑑
開山先師精進興隆。勿敢或怠。是爲序。

昭和六年在龍辛未子月穀旦 編者識。時年八十。

遍照寺小史目次

開山慈觀上人肖像

遍照寺本堂及總門中雀門

手簡

舊越後高田城主榊原侯

序文 編者

- 第一由緒篇 第二本尊佛像篇 第三寶物篇 第四住職世代
- 篇 第五軍陣和睦篇 第六奇蹟篇 第七修力篇 第八古文
- 書篇 第九殿堂建物篇 第十末寺篇 第十一寺祿篇 第十
- 二法類篇 第十三境內風景趣篇 第十四關係人篇

遍照寺小史

四

護國寺貫首 小野方良行編

第一 由緒篇

抑當寺は建久九年新田大炊介義重公考妣二親菩提の爲に上州邑樂郡矢島の里に一字建立し高鑰山遍照寺と號し香花所とし慈觀上人を開山とす爾來百六十年間寺運衰頽し舊記散逸し世代年歴詳ならず北朝貞治六年俊海僧都大に恢復を計り山城國宇治郡醍醐村大本山醍醐無量壽院より松橋流法流を相續す依て僧都を中興第一世とす次で天正年中十三世宥圓僧都の代榑原侯館林に封せらる也、之を新宿村に移し境内壹町八反百四拾歩を寄進せられ祈願所とせらる慶安年中徳川幕府より朱印地拾貳石九斗余を下賜せられ館林三談林首席に班し上府登城の際松之間總禮格に列す

因みに當寺山號の字義高鑰山の鑰は辭典に「灼切」とあり音やく訓かぎ即ち祕密の鍵鑰を以て寶藏を開き無盡の法寶を取り出し施與するの義にして弘法大師御撰述の寶鑰に取りたるものなり

第二 本尊佛像篇

本尊不動明王狩迦羅制多迦兩脇士智證大師御作と傳ふ

觀音堂本尊十一面尊不動毘沙門兩脇士弘法大師御作と傳ふ

榑原式部大輔康政公御守護佛

不動地藏合龕、地藏尊、不動尊、觀世音菩薩、陀伎尼天、銅製蚊龍厨子入、

第三 寶物什具篇

兩界大曼荼智山亮範僧正開眼

髮毛彌陀三尊種子朴子書五彩刺繡 傳中將姬造

比叡山山王祭圖金屏風 傳岩佐又兵衛勝重筆

極彩色不動尊兩脇士 傳釋妙澤筆

傳法灌頂五祕密道具、玉幡、裝束等

布薩法具一式

宸書三軸 榑原侯家老伊藤又左衛門寄附

往年邑樂郡衙群馬縣廳を經由し高崎市行在所に於て

明治天皇陛下天覽を賜ふ

五

御朱印櫃、繪符、朱網代乘籠、伊達道具一式
戰利品支那兵軍服、砲丸、大磁石、陸軍省其他寄附

第四 住職世代篇

草創開山 慈觀上人

新田氏の族胤なり建久九年新田義重朝臣考妣の爲に上州邑樂郡矢島の里に一字建立し高輪山遍照密寺と號し上人を請して開山とす草創より中興に至る百數十年間舊記散逸し世代年歴詳ならず

中興第一世 俊海

北朝貞治六年大本山醍醐無量院より松橋流法流を相續す享德三年八月十一日寂す

第二世 俊禪

以下各靈は移轉前に係り境内に墓碑なき故遷化日時不明なり

第三世 俊宗

第四世 宥辨

第五世 宥尊

第六世 朝弘

第七世 弘慶

第八世 俊旭

第九世 宥深

第十世 圓瑜

第十一世 精日

第十二世 宥源

右各靈位墓碑は當新宿へ移轉前にして舊矢島字遍照寺耕地の邊にありしならん今の石川徳次郎の宅地は明治の初上地前は當山の所有にして元境内地跡なり其西の青龍神社は寺の鎮守なりしと云ふ

第十三世 宥圓

赤生田村永明寺より昇進せらる持戒徳行絶倫なり當時館林城主榑原侯の皈依厚く寺を新宿村に移し祈願所とす

第十四世 俊盛

第十五世 善海

寛永十四年十二月十三日寂

第十六世 忠圓

第十七世 宥尊

第十八世 行昌

寛永十九年四月松平式部大輔侯より境内八反百步増補寄附せらる慶安元年八月三代將軍大猷公より御朱印高十二石九斗余拜領す寛文元年十一月廿一日寂す

第十九世 俊慶

寛文三年五月七日寂す

第二十世 行壽

寛文五年五月館林宰相右馬頭(後の護國寺開基五代將軍綱吉公)御入城拜謁被仰附白銀二枚下賜せらる十年觀音堂落成す本願主越州村上城主榊原式部大輔政邦侯延寶二年新鐘鑄造成る鐘銘は智山化主運做僧正の撰する所なり 寶永八年四月廿八日寂す

第廿一世 俊壽

字文仙正徳二年五月下總國山川攝持院より轉住す 享保六年閏七月十一日寂す

第廿二世 行算

正徳三年九月廿九日寂す

第廿三世 行深

正徳三年十月二蘭地館林鞘町自性院より昇進す 享保十三年十二月十二日寂す

第廿四世 行順

享保三年三月小桑原村密藏寺より進む 七月八代將軍有徳公より御朱印書換拜領す 十月播州姫路城主榊原侯より御供料米五石黒印を寄附せらる 廿一年三月傳法灌頂を開壇す 延享四年八月九代將軍惇信公より御朱印を拜領す 寛延三年四月智山移轉地佐州蓮華峯寺へ榮轉せらる 寶曆十二年正月廿一日寂す師當山在職中江府榊原侯邸内行勝神社創立に對し盡力せらる

第廿五世 行存

字順識當所田町産正田傳六弟先代行順の上足なり寛延三年十二月大佐貫村東光寺より昇進す 同年本堂再建着手す 桁行十三間梁行九間向拜を併せて百廿六坪雄大壯麗當地に冠たり 寶曆十一年三月十八日寂す世壽四十七



第廿六世 賢覺

字探玄武州埼玉郡上村君村出井角太夫實子寶曆十二年八月十代將軍淺明公御朱印頂戴明和三年本尊
宮殿成る美術建造結構輪奐金碧燦爛善美を盡せり大施主谷越村住人本國近江國谷屋三郎右衛門也

第廿七世 行雄

字通心 安永四年正月三日將軍家御本丸御年禮として出府登城す 七年十月廿六日寂

第廿八世 行盛

字觀識行存弟子大佐貫村折原家産安永七年八月觀音寺より進む 天明八年九月十一代將軍文恭公よ
り書換御朱印拜領す 寛政四年正月江戸榊原家より宥圓の事蹟問合せ來る由緒略に詳なり 十三年
榊原家より觀音堂修理料白銀廿枚寄附せらる 文化二年五月廿五日寂す世壽六十八

第廿九世 行寂

墓碑曰師法諱行寂字通賢俗姓中村氏寶曆己卯生于武州埼玉郡羽生領尾崎邑年十五而從上州邑樂郡館
林遍照寺行雄和上剃髮革服二十一而掛錫於智積僧坊二十一而住于自性院寛政戊午四十而主于遍照寺
文化甲戌四月退隱于南大島村高福寺年五十有六歲于時天保六乙未二月三日病卒

第三十世 行樹

文政三年八月境内觀音大土を越州高田城下に開扉をなす蓋し同領内土民結縁の爲なり六年八月高田
侯榊原遠江守佛參せらる御土産料金五兩二百八文也墓碑に曰く
師諱行樹字必同俗姓沖田氏武州横見郡上砂郷人從武陽忍封内福聚院盛樹開梨室剃髮革服寛政己未年
十八年留學智積僧坊文化十一甲戌野上州館林檀信相邀董城南遍照席恒鳴法鼓贊揚宗教營立一祠且修
理舊觀興復之功成矣今茲甲午冬遭疾將辭世誠勗諸子遺囑嗣典后席於上足天保五年十二月十二日如睡
長徂享年五十又三法歲四十有三遺骸葬于寺側

當山三十一世現住

遺資行潮謹誌

第三十一世 行潮

谷越村の産坂齊龜三郎の從兄なり 天保八年觀音堂修理料を榊原侯へ願ひ白銀廿枚下賜せらる金十
四兩壹分に當る 十年十二代將軍愼徳公御朱印書換頂戴す 十四年七月高田城主榊原政恒侯御佛參
あり 十五年八月三日寂す

第三十二世 行敏

熊谷石原出身藤原隱居と云ふ蓋し淺間神社別當所に居りしならん

一一

第三十三世 行秀

第三十四世 純行

嘉永四年野州都賀郡赤間村幡勝寺より轉住武州埼玉郡川口村大島氏産 安政二年十三代將軍温恭公
萬延元年十四代將軍昭徳公御朱印書換頂戴す 慶應二年正月三日寂す

第三十五世 俊盛

宇東海學籍智山慶應二年江黒村寶壽寺より昇進す 四年閏四月官軍の裨將廣瀬重右衛門氏兵士八十
余人を率ひ宿泊せらる 明治五年三月寶壽寺に寂す

第三十六世 良秀

字證善學籍豊山移轉地中野町寶仙寺良道師の孫弟子也慶應四年八月荒萩村滿福寺より昇進す 同月
徳川將軍御寄附の御朱印九通館林藩廳を経て奉還し後年遞減祿を十ヶ年間下賜せらる 明治二年八
月高田城主榊原式部大輔政敬侯佛參せらる家老瀧見九郎兵衛氏用人社寺方醫師勘定奉行等六十七人
隨從す御備土産料金拾兩五匁七分五厘也納めらる當山より名産桐箱入煙草を献上す 三年正月元寺

に飯住し大正六年三月一日館林町觀性寺に寂す

第三十七世 實英

字宜見赤生田村修驗延壽院明晴長子江田氏明治三年三月同村永明寺より昇進す 六年十二月豊山小
池坊化主大講義守野秀善御方教部省の命を奉じ來錫布教せらる隨員田下憲尊岩根憲曉二師及舊家老
某なり 九年二月辭職し延壽院に退き神職に轉じ三十二年六月逝す

第三十八世 良行

字義證阪川と號す小野方氏武之忍藩出身第卅六世の弟子也明治二年新里村地藏寺に任職し九年二月
當山に昇進せり 八月華族榊原政敬卿佛參せらる 十年冬豊山東校に入り事教二相を習學し尋て濠
西精舎に入り經史詩文を研究し十五年歸山し伽藍の大修理をなし十六年四月高野山主獅岳大教正を
請し弘法大師一千五十年遠忌の爲に初日庭儀奏樂二ヶ法要二日土砂加持法を修し記念碑を建つ廿五
年四月紀南根嶺に登り興教大師七百五十回忌大曼荼羅供職衆を奉仕す廿七年三月豊山化主高志大僧
正を請し興教大師七百五十回忌報恩の奉爲に初日六大法身の論鼓を鳴し法戰堂々として火花を散し
二日土砂加持法を修し群參數千法益多大なりし供養寶塔を建立す同月新義派大學林監督として出勤
す卅二年歸山し赤堀八幡免下戻し行政訴訟を提起し日夜斡旋す卅九年四月護國寺貫首高城大僧正を

一三

請して日露戦役戦死者追弔大法會を修し供養碑を建立す四十一年冬嫡弟世良田總持寺島田眞行遷化に際し其門檀の懇請により同寺へ轉住す

第三十九世 良仙

樵村と號す荒木氏先代の弟子也明治四十一年冬志村延命より昇進し常に宗術に在りて公務に鞅掌す四十三年春曾て先代が提起しありし行政訴訟勝訴の結果赤堀八幡免地七町三反余歩寺有に飯す先代は當山に常在して其事務一切を處理せり四十四年一月師跡總持へ轉住し豊山派宗務長に就職し昭和三年別格本山室生寺に陞進す

第四十世 良行

明治四十四年總持寺より歸住す大正元年より本堂屋根改造を企畫し經費五千圓を投じ四年九月起工し五年四月竣成し落成後記念碑を建つ尋て總門中門書院屋根を改葺し合計金七千圓を投す内三千圓本末十三ヶ寺の寺檀より寄附金を募集し其餘四千圓は衣資の餘財を以て之を辨す十年冬別格本山護國寺貫首に昇進し猶當寺を兼務すること四ヶ年なり十三年五月正二位子爵榊原政敬卿御參詣八十壽記念として月桂樹二本を玄關庭畑に植へらる

第四十一世 良澄

守山氏先代小野方僧正の弟子也三州の産大正十四年四月東京志村常樂院より昇進す昭和五年五月遷化す世壽七十八

第四十二世 寂證

古茂田氏先々代小野方僧正の弟子武州北埼玉郡船越の産昭和五年十二月一鴈寶壽寺より昇進す

第五 軍陣仲裁篇

館林の城主赤井但馬守照康臨終に際し家老諸野因幡守小曾根玄蕃允等に遺言して幼主文六照景を傳育せしむるに因幡守秀氏謀反を起し文六母子を追ひ已れ取て代らんとす玄蕃及び幼主親戚足利城主白石豊前守太田城主長尾但馬守同盟して逆臣諸野秀氏を誅戮せんとし館林城へ押し寄せたり茲に郡中遍照光恩茂林普濟善長の五箇寺住持戦争の爲に人民塗炭の苦しみに陥るは佛陀の大慈に戻るものとし和睦を計り元龜元年十一月十七日善長寺客殿に會盟し祝酒を献酬し向後互に誠意を以て政道を執り和睦を結ばんと誓約し將さに開散せんとせしに小曾根等陳平張良の古智を襲ひ軍勢を以て寺門を包圍し諸野に迫り切腹を強ゆ諸野是に至て釜中の魚籠裡の鳥涙を呑んで切腹せり各住持其首を乞ひて厚く葬り大亂に至らずして鎮定せり諸野たるもの自業自得因果の正理顯然たり(群書類從館林盛衰記抜抄)本記事中僧名なき故果して何世なるか不明なれども年號より推考する時は第十世の頃ならん歟

第六 奇蹟篇

第十三世宥圓僧都偶々某と法義を問答し法運拙なく敗を取り法衣を褫奪せらる師決然去て武州埼玉郡柳生村養性寺に至り入寂せらる遺言によりて荼毘するに一天俄かにかき曇り颶風大に起り遺骨灰塵を冲天に飛颶し復た一物を止めず其景況悽愴たりしと云ふ是れ實に慶長七年六月十三日也茲に榊原侯師の威靈を畏れ彌勒寺隆慶師の指導により其靈を江戸藩邸に祀り柳生神と尊崇し後ち行勝神と改稱せらる事寺傳舊記豊山傳通記及榊原家舊記に詳なり師の侍者順諦坊は天狗なりしと云ふ其後法衣は百年祭の時榊原家の幹旋により行勝神社に納めらる因みに隆慶師は護國寺第六世の貫首に榮轉せらる

第七 修力篇

第廿六世賢覺僧都安永九年二月廿四日滅罪生善衆生濟度の爲に生身八十四歳の高齡を以て入定せらる師の世に在る也恒に阿遮羅尊の祕法を嚴修し悲願金剛の本願を憶念し其陀羅尼を誦すること幾百萬遍なるを知らず宣なる哉今に至るも入定様と崇め賽客常に陸續として絶へざること

第八 古文書篇

(1) 徳川幕府御朱印

上野國邑樂郡遍照寺領同郡新宿村之内拾貳石九斗餘事並寺内竹木諸役等免除依當家先判之例永不可有

相違者也

天明八年九月十一日

家齋公御朱印

(2) 榊原侯御黒印

當寺内新宿村之内壹町四拾步此石七石九升餘先寺地之爲替前代より寄附之今度同村之内八反百步此石五石八斗參升餘令増補之畢都合壹町八反百四拾步諸役可爲免許者也

寛永十九年 松平式部大輔

四月朔日 忠 次花押

館林

遍照寺

(3) 同

高現米五石之事

右當寺爲御供料令寄附訖永可被爲寺納者也仍如件

榊原式部大輔

享保十三年十月朔日 政 祐花押

上州館林

遍照寺

(4) 伊藤家寄進狀

奉寄進鷹繪三幅

上野國邑樂郡遍照寺境内

八幡宮 御寶前

右當寺遍照寺者吾父伊藤又左衛門正義信心異于他館林在任之節當寺境内之山云近以正義精力取立于
林逐年蕃茂今爲當寺之重寶殊住持勸請

八幡宮於此林爲鎮守每歲以八月十五日祭祀不忘臣等乍繼箕襲之業奚不渴仰乎永貞相續長澤氏難爲他
家依實父之因不淺今其所奉納鷹畫也冀仰靈威之有效而以祈家運之永長而已

貞享元年甲子八月十五日

伊藤又左衛門永弘花押

長澤五郎兵衛永貞花押

伊藤只右衛門永安花押

(5) 上野國邑樂郡館林遍照寺鐘銘

徧照精舍新鐘出型聲々說法汝等諦聽初在鐘也未耳鎗々雖云未耳固有商聲一旦鐘響偉器忽成片杵纒扣發
越林垌霜天報曙永夜夢驚響徹刹海泥犁息刑人在釋也性具圓明一籍鐘響昏醉頓醒皎々心月光廓太清何謂
鐘響惟信惟行莫久在鐘懸哉群萌

延寶乙卯秋八月日

智積教院傳瑜伽教沙門僧正運徹謹勸

同國譯

徧照精舍新鐘型を出づ聲々說法汝等諦かに聽け初め鐘に在る也未だ鎗々を耳にせず未だ耳にせずと云
ふと雖も固より商聲商角あり一旦鐘響すれば偉器忽ちに成る片杵纒かに扣けば林垌に發越し霜天曙
を報じ永夜夢を驚す響刹海に徹し泥犁地刑を息む人經纏に在る也性圓明さとを具す一たび鐘響いふ
ごたいら信仰に籍れば昏醉頓に醒め皎々たる心月光り太清宙に廓たり何をか鐘響と謂ふ惟れ信惟れ行久
修養にたとふしく鐘に在ること莫れ懋めよや群萌衆生

(6) 台徳院殿御朱印寫

本文は廿四世順佐州蓮華峯寺へ轉
住せるにより傳はりたるものなり

當寺領佐渡國羽茂郡小比叡山西方本郷清士岡小石村山木泊椿尾西三川藏谷伊坪小浦於右拾二ヶ村之内

九拾石五斗事任先規寄附之訖全收納如有來可配分之並寺中門前山林竹木諸役等免除永不可有相違者也
寺此旨專佛法紹隆可抽國家安泰悃祈之精誠者也依如件

慶安元年十月廿四日

(7) 榊原侯手簡

爲寒氣御尋問家來方迄御狀殊御祈禱之御札供物并一種被掛芳慮忝候依之如此候恐惶謹言

榊原式部大輔

忠實花押

正月九日

遍照寺 回報

(8) 智山動潮化主手簡

芳翰致薰誦候寒冷之節彌御堅固御在務之段欣然之至候然者爲拙納入院御祝義金百疋御惠過當之至存候
右爲謝答可申述一品致進入之候尙來陽委曲可承不能一二候恐々不備

智積院 權僧正

動潮花押

十一月十九日

遍照寺主納

同

(9) 再 通

彌門方迄御細書忝致承知候拙納事不存寄當夏中本山住職蒙

仰罷登難有仕合存候扱又明春者任官御禮申上候付致參府先格而致

日光社參乍序忍へ立寄廟參も致度心掛罷在候右に付貴寺へ致止宿候様委曲御紙面御親切之到忝致承知
候得共中略此間早川戸法源寺泰全登山故天福寺歡喜天へ參詣の様に相勸め候間餘り隙取不申候はば立
寄參詣可申談致約諾遣候御近所に候はば天福寺にてなりとも得御意度候云々

十一月十九日

權僧正 動潮

遍照寺行雄法印

(10) 智積院鑊淨化主手簡

一簡令啓述候追日向暑氣候得共彌御無異可爲寺務珍重存候先頃其邊罷通候節者遂止宿寬談殊種々御世
話了寧成御馳走共不淺過當之到候長途無恙當十四日京着申候故爲謝禮如此候恐々謹言

智積院 權僧正

鑊淨花押

五月廿八日

遍照寺主衲

(11) 弘法大師遠忌碑

昔者高祖大師自鴻瓶水於青龍投金杵於東海扶桑飽曼茶法味者一千五十年于茲矣遺澤之至尊乎大哉今茲良行大德爲其報恩謝德修造堂舍購完佛器屈郡之諸德修兩日法會令余爲導師余巡教之途幸應其請焉大德又欲傳之後葉請余勒事不得辭以不文乃銘曰

野之館林 寺號遍照 住持良行 涵泳事教 爰爲遠忌 精修法要 祖光增輝 到觀史曉

明治十六年龍集癸未春四月

高野山座主大教正獅岳快猛撰

(12) 弘法大師一千五十年遠忌法會祭文

維明治十六年四月三日沙門良行

謹捧時花香奠供

敬莊密印祕呪壇場

奉爲宗祖弘法大師一千五十年忌報恩謝德

夫大師者

內祕三地權者也 施化儀於閻浮日域

本成獨尊覺王也 示即身於禁闕清淳

祕密加持高嶽 王公誰不攀其道

慈悲誓願洪海 衆庶誰不浴其澤

仍今

竭虔誠於追遠法會

效報謝於四曼真影

微雲菅裏廻青蓮眸於衆生

龍華定中授紫金手於一切

尙 饗

(13) 宥圓上人影贊

宥圓上人我寺第十三世住持也曾爲館林城主榑原侯所皈依以寺爲城祈願所會與某事不勝決然去至柳生村寂實慶長七年六月十三日也既茶毘將葬之大風俄起遺骨灰塵悉颺散不復止一物侯畏其威靈創建一祠於江戶藩邸祭祀致誠稱柳生神云贊曰

戒徳道譽高館林 藩公多歳敬崇深 尾城鎮護尤見驗 血食千秋盡至心

明治四十一年龍集著雍君灘林鐘仲浣

遍照第三十八世權少僧正良行撰

(14) 陸軍省寄進狀

戦利兵器奉納ノ記

是レ明治三十七八年役戦利品ノ一ニシテ我カ勇武ナル軍人ノ熱血ヲ濺キ大捷ヲ得タル記念物ナリ茲ニ
謹テ之ヲ獻シ以テ報賽ノ微ヲ表シ尙

皇運ノ隆昌ト國勢ノ發揚トヲ祈ル

明治四十年三月

陸軍大臣寺内毅

(15) 山號扁額

高 鑰 山

智積院權僧正亮範

(16) 院號扁額

釋 迦 院

長者兼仁和門跡大教正榮嚴

(17) 在郷軍人に與ふる記念書

折 伏 攝 取

豊山派管長大僧正全鏡

外に管長岩堀早川諸師の書數點あり

第九 殿堂建物篇

本堂寛延三年廿五世行存代武州川俣工匠須山喜右衛門永載設計桁行十三間梁行九間向拜百廿六坪方形
萱葺四方二重繁種用材檜杉雄大壯麗結構善美大正四年小野方良行代經費五千圓を投じて新式瓦葺に改
造す

觀音堂寛文十年行壽代本願主越州村上城主榊原式部大輔政邦侯建立四間四方用材梅木

鐘樓延寶二年行壽代建立

中雀門檜材唐破風銅瓦葺梅鶯左甚五郎作傳

表門瓦葺用材アラ、木

書院 地坪廿坪方形瓦葺古來榊原御殿と稱す
 明治四十三年六郷小學校より買ひ戻し小野方良行改築架額崇榊殿記事に詳なり
 玄關入母屋作瓦本葺接續庫院地坪四十坪瓦葺二階建
 鎮守清瀧堂入定堂二階建長屋納屋裏門等葺を並べ排列す

第十末寺篇

寶壽寺	邑樂郡千江田村大字江黒
觀性寺	同 館林町字材木町
地藏寺	同 梅島村大字新里
明王院	同 長柄村大字赤堀
慶性寺	足利郡筑波村大字羽刈
龍積寺	邑樂郡六郷村大字青柳
密藏寺	同 大字小桑原
教學院	同 梅島村大字中谷

東光寺	同 佐貫村大字大佐貫
寶殊院	同 大字矢島
寶壽寺	未
藥王寺	同 千江田村大字斗合田
密乘院	同 大字千津井

第十一寺祿篇

陸田十七町余宅地三千坪基金數百圓を有し宗憲の明文に則り住職之を管理し其收益を以て布教傳道寺門經營社會事業等を實行す

第十二 法類系譜篇

上州木戸談林常樂寺一代

同上

良賢

良精

良道

字開通野州梁田郡野田金子氏產木戸常樂寺一代掛錫於豐山三十余年事教琢磨其功既了住於同山移轉寺江戶中野寶仙寺明治三年閏十月晦日酉刻寂

良潮

字通音董師席常樂寺

良達

字通證野州下野田寶積寺法流開祖

良眞

字通範董師席常樂寺

良儀

字通文寶田氏上野田寶藏寺

良如

字通行二村氏野州吉永慶安寺

某

字通天

良慶

字通研山田氏野州名草談林金藏院

良詮

字通本櫻井氏

良猷

字行盛中野氏野州瑞穗野滿福寺

良秀

字證善荒木氏從荒萩滿福寺陸館林談林遍照寺

良行

字義證小野方氏館林遍照寺三十八世世良田總持寺三十四世遍照寺再住四十世大正十年陸進別格本山護國寺

眞行

字觀證島田氏世良田總持寺三十三世

博行

山口氏

良澄

字義通守山氏從志村常樂院進館林中本寺遍照寺

良仙

字義彰荒木氏歷任遍照總持陸別格本山室生寺

行如

字義俊村社氏羽刈慶性寺

行猷

飯田氏早世

良順 藤倉氏大正四年任梅島地藏寺住職
 寂證 字行洲古茂田氏大正九年任龍積寺後轉寶壽寺昭和六年十二月任中本寺遍照寺住職
 行純 宮崎氏昭和五年五月任明王院住職

義鎬 守山氏志村常樂院
 良憲 中村氏世良田中本寺總持寺 松元 鎌田氏昭和五年五月任小本寺永明寺住職
 良忍 澁澤氏休泊正願寺
 隆憲 鈴木氏高崎玉田寺

第十三 境内風景趣篇

當山は郡の中央に位し境内は官有寺地三千三百四十六坪を有し之に接續境外畑地を併せて五町五段歩一繩より成り西部一千坪には松柏檜杉鬱蒼として天を摩し附近村落櫛比し市街を形成し境内には本堂觀音堂鐘樓玄關書院庫裏總門中門十數棟甍を駢べて林立し南方は陸田開展し隣字分福茂林寺指呼の間に隱見し阪東太郎を擁し北方は六郷村役場館林町及躑躅山に接し渡瀬川を控へ春夏の候には梅櫻桃李爛熳として華藏淨刹を顯はし秋冬の候には楓葉錦を織り木犀香を薫じ香積世界を現じ又時には白鶴青空に翱翔し憂々の聲を聞くことあり風景佳絶閑雅幽邃にして郡中第一の稱あり

第十四 關係人篇

遍照寺關係人
 群馬縣邑樂郡六郷村遍照寺
 住職準司教少僧都 古茂田寂證
 法類總代護國寺住職一等司教權大僧正 小野方良行
 末寺總代

本寺長谷寺化主大司教大僧正
檀徒總代前六鄉小學校長

同 醫學士

同 醫士

同 六鄉村書記

世話人

同

同

同

同

同

同

小林正盛

矢島清二

小林康司

後藤濱次

若江佐太郎

樽見利三郎

須永勝三郎

渡邊龜太郎

平田榮次郎

津久井茂郎

中村庄一郎

瀧澤猶造

同

同

同

願問

同

同

檀徒壹百五拾余戶

以上

小池榮太郎

佐藤多市

新部安治

森尻太吉

松山瀧之助

森田彌市

昭和六年十二月十八日印刷
昭和六年十二月廿一日發行

== 非賣品 ==

編輯人 東京市小石川區大塚坂下町十六番地 小野方良行

發行人 群馬縣邑樂郡六鄉村番外一 古茂田寂證

印刷人 東京市外西巢鴨町宮仲二〇八四番地 大曲武助

發行所 群馬縣邑樂郡六鄉村番外一 遍照寺

372
493

終